

奥出雲ひと図鑑

再生の灯火で
地域を
照らす人



ぬくもりをつなぐ古民家再生建築士

名前
宇田川 孝浩さん

あだな
うださん

出身
奥出雲町出身

やっていること
#建築の設計
#ひとの居場所
#建築家

僕のチャームポイントは 笑顔？（割と人見知り）

人からは O型（実際はA型）っぽい と言われる。

好きなこと・ものは サッカー（下手だけど）
普段は 自宅や建築現場

建築の設計図面を描いたり現場監理

座右の銘は 目先のことにとらわれろ

今ここにあるものと同じ合うこと

奥出雲の魅力

かな流しの跡に生まれた棚田の風景が現代の日常にあること

おすすめ場所

・畳カフェ
・古民家オフィスみらいと奥出雲

小さな野望

このさきも建築の設計で生きていくこと

大切なもの

目の前にいるひと
目の前の場所

メモ

宇田川孝浩氏は、奥出雲町出身の建築士。「古民家オフィスみらいと奥出雲」では、古民家の「人が集まる」力を現代に活かし、土間が交流拠点になるよう、土間の中心に大きなテーブルを置き、ひとを結びつける場として設計しました。住宅では住まい手との対話を重視し、白紙から唯一無二の住まいを創造。過去と現代を融合させ、奥出雲の未来を照らす場づくりをしています。趣味はサッカー（草サッカーとサッカー観戦）。

あなたの「奥」にある大切なものはなんですか？

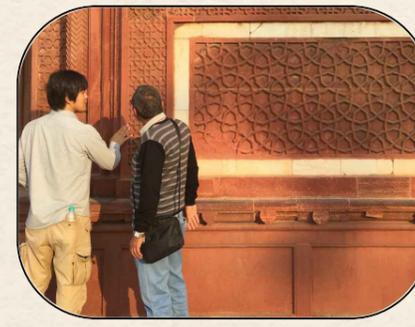
ひとの居場所を見つけること

おばあちゃんは軒下のことを「もだり」と言います。「雨だれ」のなまりでしょうか。もだりの内側には縁側があって、その内側に座敷があります。昔ながらの民家は「寝室」や「ダイニング」のように部屋ごとの機能は決めてないけど、いろんな居場所があったような気がします。近所の友達が腰をおろす場所、牛の居場所、農作業の場所や商売の場所..。新しい住宅地を見ると家の廻りにはバリアがいくつもあります。多様性の時代と言われるけど、日常に他人の入り込む余地が少なくなっていることが少し寂しいです。ちょっとだけひとの居場所のことを考えながら建築の設計ができれば良いなといつも思っています。それは奥出雲の暮らしに元々あったものだから。

最後にひとこと

当たり前は当たり前じゃないかも

建築の勉強をしていて気づいたことがあります。それは「家族」や「住宅」、「学校」や「会社」は当たり前のもではなく、近代に整えられた制度に過ぎないということです。当たり前のことが出来てないと悩んだり気持ちが焦るけど、そういう当たり前から自由になることで、僕も、みんなも自分の居場所を見つけやすくなると良いなと思います。昔からある街並みや農家・町屋にはそんなヒントがたくさんあります。



宇田川孝浩建築設計事務所へのアクセス



出雲八代より徒歩30分
出雲三成より車で10分



松江市、出雲市より車で約50分

紹介記事

おくいずも暮らしメモ



古民家の可能性「古民家オフィスみらいと奥出雲」
宇田川孝浩建築設計事務所 宇田川 孝浩